

しっかり枯らすには、正しい希釈倍数で。 もういちど、バスタの使用量をおさらい!



■バスタの水田畦畔での登録内容【例】

(2011年8月現在)

作物名 〔 〕は 適用場所	適用雑草名	使用時期*	10アール あたり 使用量(ml)	総使用 回数**
水田作物 〔水田畦畔〕	一年生雑草 及び 多年生雑草	7日 (雑草生育期: 草丈30cm以下)	500~1,000	2回

〔使い方〕希釈水量10アール当り100~150ℓを雑草茎葉散布

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。

**印は本剤及びその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示します。

み 皆さんの中には、「さあ、これからバスタを散布しよう!」と思いたったもの、「いいんだらう?」と考え込んでしまったことがある方はいらっしゃいませんか?

まず、バスタの使用量は、作物ごとに決められているので、必ず使用前にラベルをお読みください。農業ラベルには、「適用作物名」「使用時期」「10アール

あたりの使用量」が記載されています。

例として、「水田畦畔」でバスタを使用するときの希釈は、次のように考えます。

水田畦畔での希釈例

ラベルの適用表によれば、水田畦畔10アール(≒1000㎡、約300坪)あたりのバスタの使用量は、500~1000ml。希釈水量は100~150ℓと定められています。

たとえば、標準水量100ℓに対してバスタ500mlを希釈した場合は、**200倍希釈**となります(100ℓ:1.05ℓ)。

また、標準水量100ℓに対してバスタ1000mlを希釈した場合は、**100倍希釈**となります(100ℓ:1.1ℓ)。

希釈倍数と対象雑草

基本的に一年生雑草は、200~300倍希釈で枯らすことができます。スギナなどの多年生雑草には、100倍希釈で散布してください。

■希釈倍数とバスタの使用量 早見表

基本使用薬量: ■ 多年生雑草 ■ 一年生雑草

希釈倍率	水 量							
	1ℓ	5ℓ	10ℓ	15ℓ	20ℓ	100ℓ	150ℓ	200ℓ
100倍	10ml	50ml	100ml	150ml	200ml	1,000ml	1,500ml	2,000ml
150倍	7ml	34ml	67ml	100ml	133ml	667ml	1,000ml	1,333ml
200倍	5ml	25ml	50ml	75ml	100ml	500ml	750ml	1,000ml

例えば

**100~150倍の場合
(多年生雑草)**

10アール(1反歩)あたり

バスタ2本(1,000ml)*

+

水100~150ℓ



※500mlボトルの場合

基本的に、スギナなどの多年生雑草は100倍希釈。一年生雑草は200~300倍希釈で枯らせます。

例えば

**200倍の場合
(一年生雑草)**

10アール(1反歩)あたり

バスタ1本(500ml)*

+

水100ℓ



※500mlボトルの場合

特集

この作物に
登録アリ!

くり

秋の味覚に、欠かせない存在のくり。 全国各地で栽培されるくりにもバスタです。

秋

の豊穣を代表するくり。ブナ科くり属に属します。実の食べられる果実部分は種子が発達したもので、くりは「ナッツ」の一種でもあります。

日本での歴史は古く、縄文時代の遺跡から発見され、平安初期には丹波地方で栽培され始めたといわれます。種類は大きく4つ。日本で一般的に売られている「ニホングリ」、天津甘栗で有名な「チユウゴクグリ」、マロングラッセなどに使われる「ヨーロッパグリ」、日本ではあまりみかけない「アメリカグリ」があります。

くりの見分け方

果実に光沢と張りがあり、ずっしりと重みがあるものが良いくりです。古いくりは水分が減って軽くなり、味も風味も落ちていきます。

くりの栄養と効能

カリウムが多く含まれ、高血圧予防や動脈硬化などに効果があります。また葉酸も含まれているので、貧血予防

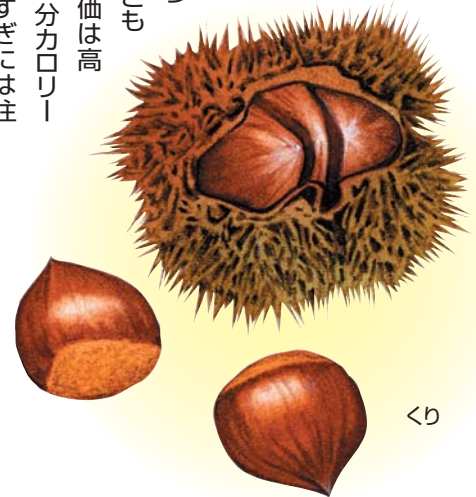
にもなります。風邪予防や美容効果のあるビタミンC、疲労回復に役立つビタミンB1、老化防止に役立つビタミンB2なども豊富です。栄養価は高いのですが、その分カロリーもあるので食べすぎには注意してください。

くりの栽培地

くりは全国各地で栽培されています。年間16,000トンほど出荷されています。生産量は、茨城県がトップ。ついで、熊本県、愛媛県と続きます。(2009年調べ)。品種別では「筑波」がトップ。ついで「丹沢」「銀寄」となります。

くりにもバスタ!

くりの樹園地の雑草もバスタで防除できます。一年生雑草から多年生雑草まで、問題雑草はバスタでしっかり防除してください。



■バスタの登録内容 (2011年8月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期*	10アールあたり 使用量 (ml)	総使用 回数**
くり	一年生雑草	30日 (雑草生育期: 草丈30cm以下)	300~500	3回
	多年生雑草		500~750	

[使い方] 希釈水量10アール当り100~150ℓを雑草茎葉散布
*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。
**印は本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

REPORT



背負式散布機によるバスタ散布

日本各地のバスタ情報 ~ 北海道編 ~



レポーター バイエルクロップサイエンス 北海道営業所

北見地区担当 橋 純一

JAきたみらい(北海道北見市)管内において、白花豆は北海道の栽培面積の73%、紫花豆も同80%の作付けがされ、日本一の産地となっています。白花豆や紫花豆は、大粒で煮豆や甘納豆などの高級菓子に使用されています。

栽培の際に「女竹(めだけ)」と呼ばれる竹の支柱を組み立てるため、防除機械での薬剤散布が出来ず、背負式散布機またはブームスプレーヤーから長いホースを引いて畦間処理しています。このように手間と時間を掛けて育てているため「作物への安全性が高い」バスタが選ばれています。

今年も白花豆・紫花豆の収量と品質の向上のために、バスタの安全性や除草効果を、JA職員と共に生産者へ伝えていきます。

大切な
作物のそばに。



バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 (9:00~12:00,13:00~17:00 土・日・祝日を除く)

詳しくはバスタの情報サイトへ
www.basta.jp/